
 報 告

順天堂大学保健看護学部 順天堂大学保健看護研究 5
P.94-96 (2017)

第20回国際パーキンソン病・運動障害学会に参加して

A report of 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders

大 熊 泰 之*

OKUMA Yasuyuki

2016年6月19日から23日までドイツのベルリンで第20回国際パーキンソン病・運動障害(Parkinson and Movement Disorder Society: MDS)学会が開催され、参加してきました。この学会は第1回大会が1990年に開催され、初めのうちは隔年開催でしたが、最近では毎年開催されています。私は第1回大会からほぼ毎回参加しており、2006年には私の恩師である順天堂大学水野美邦名誉教授が学会長となり京都で開かれました。

ところでMDS学会はパンアメリカン(北米・中南米)、ヨーロッパ、そして我々が属しているアジア・オセアニアの3つのセクションに分かれています。国際MDS学会は毎年開かれますが、それぞれのセクションでも約2年に1度の学会を開いています。2014年11月にはタイのバンコク近くのパタヤで、2016年3月にはフィリピンのマニラで開催され、参加してきました。実は一昨年からアジア・オセアニアセクションの役員を務めさせていただいています。役職は財務委員(Treasurer)ですが実際の会計は米国本部のスタッフが行なってくれますので、それを承認して公表することが仕事です。もっと重要な仕事は、他国の

役員と一緒にMDSの会員をどうやって増やすか、あるいは次回のアジアにおける学会をいつどこで開催するかなどを討議することです。MDS学会のプログラムや演者の選定も行ないます。そのため我々アジア地区の役員はテレカンファレンス(最近ではウェブカンファレンス)を隔月で開いていますが、学会時には面と向かっての役員会議を持ちますので、参加する意義はとても大きいのです。順天堂大学の推進する「国際交流」を神経学の分野で実践させていただいておりましたが、この歳になって英会話の重要性を再認識させられています。

話をベルリンの学会に戻します。日本からベルリンへは意外にも直行便がないのでブリュッセル経由にしました。これを決めてからブリュッセル空港で大きなテロ(爆破)があり心配しましたが、6月には何事もなかったかのような雰囲気でした。学会場はベルリン・シティーキューブという大きな会場(写真1)で、郊外に位置するので毎日電車で通いました。切符を買うのは何処の国に行っても苦労します。それが面倒なので1週間有効な切符を購入しました。改札はありませんが、時々回ってくる車掌に求められたとき提示出来ないと罰金を払うようです。次に分からないのは、列車の行き先表示です。私も1度違う電車に乗車してしまい、また元の駅に戻って来るのにも苦労しました。きっと外国人が東京で電車に乗る感覚も同

* 順天堂大学保健看護学部

順天堂大学医学部附属静岡病院 脳神経内科

* *Juntendo University Faculty of Health Sciences and Nursing
Department of Neurology, Juntendo University Shizuoka Hospital
(Nov. 10, 2016 原稿受付) (Jan. 20, 2017 原稿受領)*



写真 1

じなのではないかと思います。

MDS学会の参加者は神経内科医が中心で年々増加しており、今回は製薬会社や報道関係も含めて5000人以上が登録しました。さまざまなトピックスや教育講演などに計180人のファカルティメンバーが関わり、ポスター発表は2000題を超えました。私はパーキンソン病が専門なので、今回は歩行障害の解析についてポスター発表を行ないました(写真2)。パーキンソン病患者さんが歩こうとしても一歩が出ずに止まってしまう状態(すくみ足)をいかにして客観的に

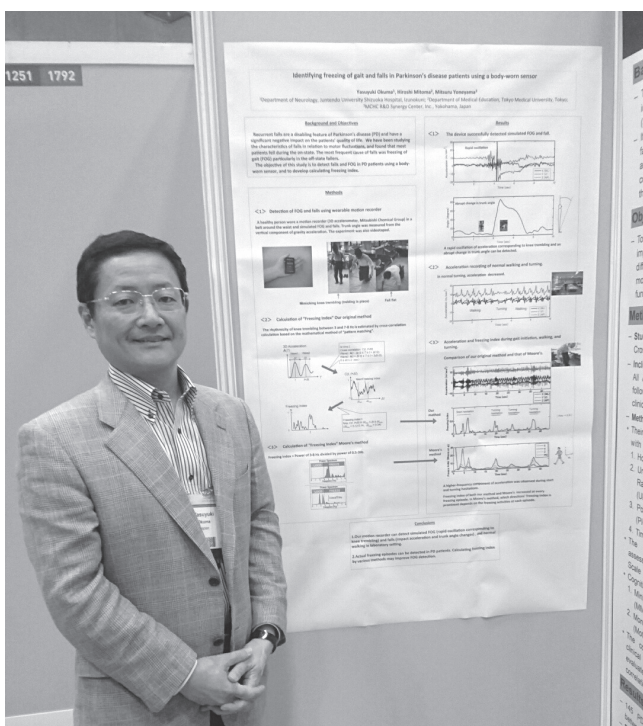


写真 2

とらえるかというもので、この数年少しずつ違う方法をトライしています。最近ウェアラブル Wearable という概念が広がってきていて、同じようなことをスマートフォンで試みたという報告もありました。帰国直後の三島キャンパス保健看護研究会で、ポスターをラーニングコモンズに貼り出したのでご覧になった方もいらっしゃると思います。国際学会では発表も大事ですが、人脈作りも大切です。国際的に顔が売れてくると色々なことが有利に働きますし、外国での講演の依頼も来るようになります。

海外での学会ではその土地の美味しい食べ物やお酒を味わうのも楽しみのひとつです。毎晩のように日本からの参加者たちと食べ歩きをしました。そうしますとどうしても多飲過食プラス運動不足になりますので、早朝役員会議がない日には早起きしてジョギングもどき(歩き半分小走り半分で、実際は歩いている時間が長い)をしました。写真3はホテルから数百メートルに位置するブランデンブルグ門ですが、今回は市の中心部に宿泊したのでベルリンの壁などの観光スポットも午前セッション前の走り歩きで見回れました。



写真 3

ベルリンは治安もよく大きなトラブルも無く最終日を迎えたが、災難はそのあとに待っていました。まずベルリンからブリュッセルへのフライトが大幅に遅れて、東京への乗り継ぎ便が行ってしまったのではないかと本気で心配しました。実はブリュッセルでは落雷の影響で東京への便(ANA機)も飛び立せずに

いたのですが、機内に乗り込んでからさらに数時間待たされました。ベルリンで預けたスーツケースは雷で空港地上業務が滞ったせいで ANA 機に積み込まれずに、2 日後にようやく届きました。これが行きの手でなくて本当によかったと不幸中の幸いに感謝した次第

です。国際学会役員として国際会議への参加は重要ですから、これに懲りずに交流を進めて行きたいと思えます。2017 年の本学会はカナダのバンクーバーで開催されることになっています。